

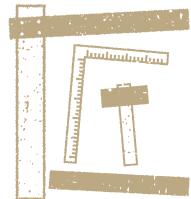
やさしい。

その家は「やさしい」住まいです。

住む人・創る人・地域や社会にとって「やさしい住まい」

住む人が穏やかに健康でいられる器である住まい
居心地は春の陽だまりのように、一年中を快適に
余計な材料と手間を省き、永く使えることを一番に
骨組みは簡潔であるほど美しく、そして強くなります
ここで自然環境にも逆らわず共存できるのは、土に還る材料のおかげ
すべてにおいてありのままに創り上げることで、負担も少なく
街並みにとけこんだやさしい住まいが生まれます





たのしい。

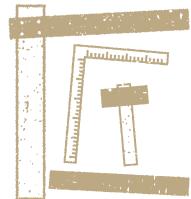
その家は「たのしい」住まいです。

住む人・創る人・地域や社会にとって「たのしい住まい」

住む人がたのしさと安らぎを感じられる器である住まい
住まい方に根ざしたアイデアやこだわり、工夫は存分に
その思いは熟達した腕を持った職人がしっかりとカタチにします

住む人の暮らしへの確かな思いが満ちる住まいは
やがて人々が集まるたのしい空間へと成長するはず
夕暮れ時に窓からこぼれるあたたかな明かりや笑い声は
通り過ぎる誰かにも安らぎと安心感をもたらし、たのしい住まいが生まれます





きもちいい。

その家は「きもちいい」住まいです。

住む人・創る人・地域や社会にとって「きもちいい住まい」

住む人がいつも快適に過ごせる器である住まい

窓からは四季の移ろいを運んでくる心地よい風と

めいっぱいのお陽さまの恵みを取り込んで

一歩足を踏み入れたときから不思議と懐かしく寛いでしまうのは

木の香りと温もりが、私たち日本人のDNAに刻み込まれているからなのかも

本当に良い住まいについて語るには、難しい言葉はいりません

小さな子どもでも五感で感じ取れるこのきもちよさがあればいいのです





木の家に永く住むこと

やさしい。
たのしい。
きもちいい。

永く住むことの意味

たとえば子供の成長や地域の活動を通して、地域の人々とコミュニティが生まれます。そしてそれぞれの家から街に、時間と人がつながっていきます。そうして住んでいる街や地域に愛着が生まれ、それが安心した暮らしをもたらします。また、永く住むと家を取り壊す回数も減って、ごみを減らすことにもなります。

永く住むための工夫

すまい手は年月とともに変化します。子供は成長しやがては巣立っていき、そしてまた新しい家族とともに戻って来たりします。家族は時には増えたり、また否が応でも減ったりします。どんなふうに変わっていくのか、ある程度想定をして可変性を持たせたプランを考えておくことが大切です。そうすることで、永く住み続けることのできる家になります。また、自然な素材はそれぞれに寿命があり、使い方でその寿命は大きく変わってしまいます。適材適所を考え、耐久性や経済性を考慮し材料を選ばなくてはなりません。しかしそうは言っても、どんな素材でもいずれ寿命が来て、取り換えなどメンテナンスが必要です。その時に、できるだけ大掛かりにならないよう工夫を施し、メンテナンスしやすく作ることも永く住むために必要な要素です。



四季を楽しむ暮らし

やさしい。
たのしい。
きもちいい。

冬 太陽のぬくもりを窓からだけではなく、屋根からも取り入れて家の中をあたためます。夜や太陽が顔を出さない日は、床下に蓄えたぬくもりが活躍します。それでも足りないときは、たとえば薪ストーブがあるとまた楽しみも増えたりします。

夏 大きめにとった軒で日差しをさえぎり、大きな窓や小さな窓で風を通します。周りの建物や環境などで風の通り道を考え、窓の大きさや開け方を工夫します。また、太陽の力でお湯を作ったりもします。ゆっくりあたためたお湯は肌に優しい感じがします。

春と秋 ちょっと広めに作った濡れ縁で、お茶をしたり昼寝をしたり、夜にはお月見をしたり、庭の草木や花で色やにおいを楽しんだりすることができます。濡れ縁は家の中と外のつながりを少し曖昧にしてくれます。

やさしい。
たのしい。
きもちいい。

家は必要以上に大きくしない方が良く考えています。大きさは面積や高さなどの数字ではなく、体で感じる空間のことです。大きすぎると落ち着かず、小さすぎると窮屈です。ちょうど良い大きさが居心地の良い空間になります。

広いリビングより少し大きめのテーブルを置くほうが、いろいろと便利です。時にはそれぞれが自分のことをしていても、テーブルが大きいとそれほど気になりません。

小さな家でも自分の居場所（必ずしも部屋ではなく）があると居心地がよくなります。家族が少しずつかわりながら、お互いに気配りをし、でも窮屈にならない距離感が大切です。また、明るいところばかりだと何となく落ち着きません。夜は夜の暗さがあり、そこに灯る少しの明かりが落ち着きを感じさせることもあります。



居心地のよい小さくらし



庭を楽しむくらし

やさしい。
たのしい。
きもちいい。

小さくても良いから庭を造ることをお勧めしています。

実のなる木を1本植えると、小鳥が集まったりします。小鳥が来るといろいろな種を運んできてまた植物が増えたりします。

廊下の窓や洗面所の窓など、日ごろ何気なく通り過ぎる窓の外に、花の咲く木や落葉樹を植えると、日々の生活の中で季節の移り変わりを感じることができます。また、何か記念樹になるものをいくつか植えておくと、やがて年月が過ぎその場所に家族の思い出が刻まれます。

それは次の世代に受け継がれ、街の景色として残っていきます。



自然に「人」が集まる素敵な場所
つくるひとのこだわりがすむひとの心にひびく
「いちばん」じゃなくて「ここだけ」がきつとある



やさしい。たのしい。きもちいい。

大樹の木かげのような住まいを

気持ちのいい風が吹き抜ける大きな木の下で、ピクニックを楽しむ家族がお昼ごはんを食べようとしています。

見回せば、木かげを求めてたくさんの人々が集っています。誰に教わったわけでもないのに、人はおのずと安らげる場所、笑顔になれる場所を見つけ出すことができるのです。

私たちの目指す住まいづくりはまさにその『大樹の木かげ』でありたいと考えています。

「ここにいれば安心」と思える、心身共に抛り所にできるかけがえのない場所を 創りたい、それがより自然に近いカタチであれば、なお素晴らしいことです。

どんな家でも建てられたその場所で、周りの環境に影響を受けているものです。その環境とうまくやり取りしながら四季の移ろいを感じ、夏は夏らしく、冬は冬らしく暮らしていくには……。石化エネルギーが普及していなかった時代には当たり前だったそんな暮らしの知恵、現代では忘れられがちな日本人本来の丁寧な住まい方は、いま私たちが提案する「パッシブデザイン」という考え方に継承されています。

我慢するのではなく、自然の力を利用して気持ちよく暮らす術、自然のエネルギーを活用しながら住むことの魅力。そのために私たちは住む人の暮らし方に寄り添い、その場所、その家族にしかない『ただひとつだけの住まい』の提案を第一に考えます。

また、それを実現させる職人たちも揃っています。設計と施工が車の両輪のように信頼し、理解し、高めあいながら優れた住まいづくりに臨んでいけるのが木匠工務店の強みです。我が家としての『大樹の木かげ』を手に入れるための準備が私たちにはあります。

そして、家は建てて終わりではありません。インクを補充して使い続けるお気に入りの万年筆、丁寧に磨くことでいつまでもしっとり来る履き慣れた革靴、やさしく洗い上げる上等なシャツ。日々の暮らしの中で大好きなモノを慈しむのと同じように、大切な住まいも手入れや修理は不可欠です。私たちは「創ってきた者だからこそできる家守りがある」と考えています。冬に落ちた葉をかき集めたり、夏に伸び過ぎた枝を払ったりするように、これからもずっと住み続けるための住まいのお手入れも、私たちの大切な仕事です。

便利が便利を呼び、たくさんの人工的なモノに囲まれている今、木や自然が長い年月をかけて果たす『なにか』を大切にしたいという気持ちはとても健全な本能ではないかと思います。なぜなら私自身もそう感じ、考え、今のような住まい創りのありかたへとたどりついたのですから。

急がず焦らず誠実に。
着飾りすぎずシンプルに。
似せたものではなく本物を。
大切なモノを大切に。
私たちと一緒に『あなたにとっての大樹の木かげ』を探しに行きましょう。

有限会社 木匠工務店
代表取締役 佐藤 正志





やさしい。たのしい。きもちいい。

 木匠工務店
mokusho.com



会社名 有限会社 木匠工務店
所在地 〒227-0036
神奈川県横浜市青葉区奈良町1966-7
電話 045-962-7854
FAX 045-962-8926
Eメール info@mokusho.com
URL http://www.mokusho.com

お気軽にご相談ください

 0800-222-7722